

NPO法人社会還元センターグループわ会報

情報ギャラリー

第32号

情報ギャラリー第32号

発行日 2005年10月28日

編集 グループわ広報部

発行者 納利春

発行元 NPO法人社会還元センター
グループわ

TEL (078) 743-8101 FAX (078) 743-3830

Eメール group-wa@wa-net.jp

ホームページ http://www.wa-net.jp

会員どうしの助け合いネットワーク

西区会などで検討はじめる 副理事長 三宅 慶忠

介護保険の対象にはならないが、会員のみなさんや家族の方が健康上の理由で、ちょっとした支援や手助けがあればと願う時があります。そんな時、私たち会員どうしで助け合おうという活動です。グループわでは「相互扶助事業実施要綱」をまとめて各区会でも検討をはじめています。

私たちグループわの仲間はボランティアを志して集まり、活動を続けています。私たちは必要とするところへ出向き、お役に立っています。そんな活動をしているのだから、仲間が手助けを求めているのなら、他に助けを求める前に、仲間内でそのニーズに応えるべきではないか、素朴な思いが起こるのは当然です。

そんな思いを現実のものにしたいとの願いを形にしたのが、グループわに信託された基金です。この基金を活用してグループわ会員の相互扶助制度を立ち上げるべく、わ事務局本部に検討委員会を設けて、1年を掛けて論議を進めてきました。その間、情報ギャラリーを通じて検討委員会の基本的な考え方をお知らせするとともに、この課題についてのアンケートも実施しました。

まずネットワークを

アンケートから相互扶助制度にかける期待度も十分伺えましたので、検討委員会はその成果を「会員相互扶助事業実施要綱」に纏めました。要綱では、困窮会員の近くの会員が原則的に手助け支援をすることとし

ています。親兄弟、親類縁者といえども身内だからといって常に助け合えるものでもありません。とにかく近隣の会員が相互に扶助することがこの事業の理念なのです。少しでも無理なく困窮会員仲間の手助け支援を企図したものです。

この要綱に即して会員相互扶助事業を成立させるには、近隣性、地縁性を具現した会員相互のネットワーク構築が不可欠です。このネットワークは、地域の地勢的状况など反映させながら各区会で取り組みをお願いするほかありません。

西区でも独自案

実際の運用に当たっては、区会会員方に相互扶助理念をご理解頂き、ご協力願わなければ実施できません。西区会は、相互扶助基金創設に関った方もおられて、わ事務局本部からの制度案に積極的に応えて頂いています。西区会は、わ事務局検討委員会の纏めを踏まえながら実施可能とする西区独自の提案を策定しました。

理想的には全区一斉に事業実施のスタートができればいいのですが、足並みが揃わなければ、いつまでも

出来ない恐れがあります。全区に亘る事業であれば、区毎に運用が異なることは混乱を招くことにもなります。先駆的に取り組んでいる西区会の皆さんにパイロット的に相互扶助制度の運用を試みて貰い、そこから全区実施に及ぼしていけばと考えます。

本年度内に実施を

西区の三島会長と西区会案の纏めをされた方と、本部提起の案との摺合わせをしました。今後も協議調整をして、今年度内実施の目途をつけたいと思っています。相互扶助のネットの構築には区内会員がどのように所在しておられるか、一目瞭然に把握しておく必要があります。地図に所在をプロットする、その取り組みをして頂いております。

兵庫区会でも相互扶助制度について論議を頂いていると聞いています。会員お互い困った時助け合おうという気持ちを皆抱いておられると思いますが、それぞれに事情もあって手助け支援ができるかは難しいことではあります。相互扶助制度の趣旨を理解して頂き事業実施ができることを願っています。



神戸市民福祉顕彰 奨励賞を受賞して 理事長 納利春

グループわは昨年、環境関係で、今年は福祉関係で大きな賞をいただきました。全く地道に今日まで福祉、環境関係で実績を積み上げて来られた皆様の活動の賜ものです。神戸市民の福祉をまもる条例に市民福祉顕彰という表彰制度があり、日頃のグループわの活動を認め、更なる今後の活動を期待して、平成17年度の市民福祉顕彰奨励賞を贈るというものです。賞金も頂きました。

震災時のボランティア活動を経て、任意団体グループわを設立、”再び学んで他の為に”をモットーに、昨年にはNPO法人格を取得、その活動範囲を広げ、広域的な市民福祉活動に取り組み、今後の活動が期待されるとしています。

受賞に対して、こども家庭センターから祝電をいただいたこと、また灘区会でも神戸市社会福祉協議会理事長感謝状を頂いたことを付記しておきます。



小学生の学習をサポート

グループわ〔子どもたちの学習支援活動〕はじまる

理事 中沢 保夫

活動の概況

グループわの「子どもたちの学習支援活動」が9月より始まりました。要請のあった小学校22校中18校延べ72名が次々に活動に入っています。うれしいことに多くの先生方から感謝の言葉が寄せられています。以下、本活動の経過と、これからの計画を報告します。

1、第1回登録者の集い

8月8日(月)開催 於KSC
学習室1,2 出席者44名

(1) 神戸市シルバーカレッジ事務局 明石照久総務課長の激励のご挨拶を頂きました。

(2) 要請校の一つである北区有野東小学校 皆内律子校長より小学校の現状についてお話を頂きました。その中から私たちは、これから活動を進めるに当たって、多くの具体的なヒントを頂きました。

(3) 出席者自己紹介、本活動の基本的な考え方の説明や、お互いの間の意見交換と活動意向の確認をしました。

2、その後要請校との調整を行う。

支援活動予定者が個々に小学校へ出かけて先生と支援日や内容の打ち合わせを終えて順次活動に入り現在に至っています。

3、第2回登録者の集い

11月21日(月)22日(火)に開催致します。

新たに市内の小学校から算数の授業のサポートや特別支援教育補助、クラブ活動補助の要請が来ています。まだ支援できていない学校もあります。グループ

わとして、これらに応えようとする、より幅広い分野でのご協力を頂かなければと思っています。まだ登録されていない会員の方々”登録者の集い”にどうぞ出席下さいますようお願いいたします。(右下の案内をご覧ください)

わくわく若木

タイムに参加して

東須磨小支援者 榊原 惇一

両親の介護生活から解放された矢先、情報ぎゃらりーの学習支援への呼びかけに応募した。東須磨小学校を紹介され「水博士」グループの支援に参加することになった。このグループは

3,4年生56名と担当教師3名で構成されていた。毎週水曜日午後に1時間程、5週間にわたって活動することになった。数十年ぶりに子どもたちと接触するため、とまどいと不安感で一杯であった。

校内プールの生物調査や観察をするうちに、子どもたちに声を掛けられたり、纏わり付かれたりしてみると子どもたちにも受け入れられたのだと感じ、事前の不安は杞憂に終わったようである。

この企画の目的は校区内の川の生物観察を中心に、自然の大切さを学び、大人の話聞くことにより、新たな発見を促し、父母や地域社会との接触等が計られた素晴らしいものであった。5回にわたる体験から1時間前後の活動では如何にも少なく、平日の午後のため、父母の参加は望むべくも無い。定着させるためには相当の時間と、様々な試行が必要と思われる。

今回は、教師との接触が少なく、こちらから積極的に働きかけるべきであったと反省している。今後、このグループには、川や海を汚すゴミの清掃をすること、水を汚さぬような実践活動を取り入れたいと思っている。我々、老人が多く参加して、地域社会に貢献できればと願っている。



学習支援活動の第1回登録者の集い

学習支援活動に参加して

木津小支援者 宮崎 芳江

「子どもたちの学習支援活動」で、私に出来るかどうか不安でした。自宅近くの木津小学校の校長、教頭先生にお会いして、是非来てほしいと歓迎され、そのお言葉でやってみようと思いがわきました。

9月よりスタート、1、2年生の算数の支援で週1回、1学級30～40人クラスで、1人の先生ではなかなか目が届かないところもあり、子どもたちに先生が説明している時は、よく聞くように注意する。行儀の悪い子どもに声をかけたり「わからん、教えて」と手を上げると、やさしく納得いくまで助言する。プリ

ントに丸をつける時、美しい数字で書いている子には褒め、間違えた子どもにはヒントを与えると、直して再び持ってくる。「よく出来たね。100点」というと、嬉しそうな顔。1人1人個性があり、元気いっぱいの子供たちから、パワーをもらっています。グループわに入ろうと思っている方は是非チャレンジして下さい。

第2回登録者の集いのご案内

(1) 現況の報告 (2) 支援者の情報交換を目的として、下記日程で開催いたします。

① 11月21日(月) 14:45～16:30

② 11月22日(火) 14:45～16:30

両日とも、於神戸シルバーカレッジ学習室1,2 2日間開催いたしますので、万障お繰り合わせの上 ①②のいずれかに是非ご出席をお願いします。

震災10年神戸からの発信

「KOBEボランティア交流祭」に参加

食6一文 堀内 昭

阪神・淡路大震災当時には「ボランティア元年」といわれたように、150万人ものボランティアが全国から神戸の地に駆けつけて下さり、言葉や形に表せない協力・援助を受けました。

そこで10年をひとつの契機として、ボランティアグループやNPO等が中心となって、①震災で学んだ「命の大切さ」「絆の大切さ」「感謝の大切さ」を再認識し、②いま一度震災の経験や教訓を踏まえて、震災から何を学んだかを「ボランティア」という視点から検証する。

③ボランティアが共に「出会い」「再会」「交流」する場を設けるということで、被災地神戸からボランティアの発展・活動を国内外に発信することを目的に8月27、28日の両日「KOBE ボランティア交流祭」が開催されました。グループ わ は他の団体と共に実行委員会にも参加しました。

会場はクリスタルホール、デュオコウベ、スペースシアター、こべっこランドの4カ所で行われました。クリスタルホールでのオープニング開会式は黙禱に始まり、引き続き震災レクイエム組曲「あれから10年」を混声合唱団コーロKSCが、震災の悼みから未来へのはばたきを歌いました。各会場では、市内各団体などと共にグループわ、シルバーカレッジの各グループが様々な演技で、神戸が元気に復興している



組曲「あれから10年」を合唱するコーロKSCの皆さん

ことを発信しました。豊岡、出石、小千谷など水害、地震など最近被害を受けたところからも物産展の参加があり、大いに賑わいました。

次のグループの方々に参加して頂きました。ご協力くださいました皆

様、本当に有難うございました。

- ・混声合唱団コーロKSC
- ・銭太鼓「楽遊クラブ銀雅」
- ・紙芝居「童とともに」
- ・「木工グループ」
- ・「一寸奉仕」
- ・「茶道グループ」
- ・有馬観光ガイドグループ

老老の慰問

音4一文 垣尾一志

全国ミュージックベル合奏コンテストで、銅賞を受賞した「ディサービス塩北」チームに、近隣の老人クラブから9月19日の敬老の日の催しに、出演依頼があった。

すわ一大事と、30数名のメンバーは、それから猛特訓で、老が老を慰問する形となった。以前舞子ビラで出演したときと同じユニホームスタイルで、緊張のひとつき…。なかには孫の応援もあって、演奏が終わって盛大な拍手。

ホッとして家に戻り、家族にねぎらいの声をかけられて、改めて健康に恵まれ、自己実現の場を得たことに感謝したというのが、大多数の皆さんの一日でした。

季節の草花 ②

生8一文 久保 知彦

キンミスヒキ・ワレモコウ

散歩道のひとつである白川の村からしあわせの村に向かう道には、秋になるとハギ、クズ、ススキなど色々な花が咲き始めます。これらの中でひっそりと咲いているのが、キンミスヒキでありワレモコウです。

キンミスヒキ（バラ科）は、紅白の花をつけるミスヒキ（タデ科）にたいして五弁の黄色い花びらをもった小さな花を細長い穂状に付けることからその名があります。名はミスヒキでもまったく違った仲間です。困ることは、花の散ったあとのがく片が衣にくっ

付くことで要注意です。

一方、ワレモコウ（バラ科）は「吾亦紅」とも書きます。細くしなやかにのびた枝先に暗紅色のかわいい花をつけるのですが、花という感じがしないのは何故でしょう。それは、花びらが無く、がく片だけの集まりだからです。

この花もひっそりと咲いています。このあたりが日本人好みの花でもある理由でしょうか。花の色は関東や関西あたりでは濃い色で、北のほうに行くにしたがい紅色が鮮やかになるそうです。



キンミスヒキ

こんな活動もしています

ブルーベリーのジャムづくり

副理事長 三宅 慶忠



明生園の子どもたちとジャムづくり

しあわせの村の果樹園にはブルーベリーが80株ほどあります。以前はその果実を材料に村内の福祉施設でジャム作りをしたこともありましたが、最近では成るに任せて放置されていました。今年、しあわせの村からグループわに、ブルーベリーの管理と収穫作業に加えて、ジャム加工で収益が図れないかと相談がありました。

ジャム加工、販売は食品衛生上の制約があり、今年は試行的に行うことになり、果樹管理、収穫は会員の8園会が引き受けてくれました。炎天下、下草刈りや水遣りにと精を出して頂いたおかげで、7、8月の収穫は20kg余りもありました。

8月30日に食文5期生の銀の匙グループや8園会の皆さんがジャムづくりに腕を振りました。300g入り瓶が70程出来ましたが、今回は試作品ということで、ジャム作りの方々や、カレッジ事務局、しあわせの村本部事務局の皆さんに賞味して貰い、加工費用としてカンパもありました。

この後も、9月末にかけ

て残りの果実を採取しましたが、台風14号が災いして、収穫は10kgと少量でした。

しあわせの村本部事務局から社会性のある活動にしてはとの示唆もあり、2回目のジャム作りは9月27日、村内の明生園から10名（内先生2名）を招いて、カレッジ調理室でジャム作りをしました。

障害があってもできることをするのは大切なことです。出来上がったジャムをおみやげに大に楽しいひと時を過ごして貰いました。来年以降もブルーベリー活動が続くことを願っています。

グラウンドゴルフ大会

福6ーい 滝野 昭夫

10月22日(土)今にも雨が降りそうな天気のもと、フルーツ・フラワーパークで第1回グラウンドゴルフ大会が開かれました。地元大沢町、長尾町、一般公募、グループわ等から総勢150余名が参加しました。

フルーツ・フラワーパークでは数年前よりグループわと協働で“スロースポーツ”の啓発に努めています。スロースポーツの中でもグラウンドゴルフは、誰でも気軽に来れるため人気が高まっています。

この度、グラウンドゴルフの企画、運営を依頼され何度か打ち合わせをしながら準備を進めてき

ました。

競技は8ホール2ラウンド総打数ストロークプレーとしましたが、初心者ありベテランありとプレーヤーは様々。グラウンドは小石が多く日ごろ腕に自信のある方も、思い通りにボールが転がらず、悪戦苦闘をされていました。

和やかな雰囲気のうちにはプレーを終わり、成績発表ではグループわの女性が優勝するなど、多くの女性が上位を占めました。とまり賞（ホールインワン）はすべて女性でした。豊かな自然環境の中、楽しくプレーが出来ましたことに感謝し、次回開催に繋がりますようお願いしています。



熱戦が繰り広げられたグラウンドゴルフ大会

里山であそぼう

親子で集まれ自然遊び塾

「しあわせの村の里山であそぼう」10月23日(日)シルバーカレッジで、親子



名札づくりの説明を聞く親子たち

で集まれ自然あそび塾が開かれた。あいにくの小雨模様だったが、熱心な親子12組40名のほか、ベトナム人の子も5人も参加していた。カレッジ園芸室

で、里山で取れたドングリ、枯枝、マツボックリ、ススキの葉などを使って、グループわの皆さんの指導で、ドングリのコマ、小鳥、カブトムシ、キリ

ギリスなど木のオモチを作り大喜びしていた。クリスマス飾りのリース作りに苦勞する親子の微笑ましい光景も見られた。

午後からは雨も上がりカレッジ裏の里山に入り、色着きはじめた秋の紅葉を楽しみながら、それぞれの木の名前や薬になる草などの説明を聞いた。落ち葉を集めて作ったオチバンクを掘り返し、カブトムシの幼虫を発見した歓声も上がった。最後に里山についての感想を話し合った。

学園祭でカレー屋さんが大人気

理事 高橋 孝男
食9一文 大石 富久子

シルバーカレッジ挙げての学園祭が、10月8日行われた。心配された天気は、午前こそ小雨であったが午後には上がり模擬店販売は無事中で盛大に催された。グループからは昨年に続き、本部の「カレー屋さん」(食文9期の皆さん)と国際部会のNGOベトナムin KOBE(スタッフは在日ベトナム人を含む9名)の2店と、今回より新たに参加した「AKO(あこ)」(タガログ語で私の意味、Actions the Key to Openの頭文字よりとる。スタッフ3名)の計3店が参加した。1食300円のカレーライスも良く好評で300食の予定が330食売り上げた。「旨かったから家族で食べるからルーだけほしい」「旨い美味しい」と好評を受け、調理担当の食文9期生の皆さんは大喜びだった。早くから調理、買い物を買って分擔、試作を繰り返した結果、素材となる



人気の「カレー屋さん」

玉葱とご飯に一工夫を凝らした。先輩諸氏からもお褒めを頂き、ますますグループの絆を深めたそうだ。

国際部会の店ではベトナムのお菓子や春巻を調理販売、特にバナナ春巻は好評であった。新参加のAKOはフィリピンの特産織物や装飾品などを販売した。

一方カレッジホールではKSC男性合唱団や混声合唱団コーロKSCの皆さんが在校生とともに出演、日ごろ練習の成果を披露した。また国際部会では在日ベトナム人10名ほどを学園祭に招待し、観客席で楽しんでもらった。

デイサービスで懐メロを歌う

音6一文 杉本 敦子

2年前、灘区のわの集まりで、月1回のナツメロを歌うボランティアに参加しないかと誘われて、見学に行きました。大石高齢者介護支援センターに来ている人達は八十歳前後が多く、使っているCDのプロの声が高く、一緒に歌うのは無理なのです。

私は三味線を持って行きます。三味線ならみんなの歌える調子に合わせられるからです。歌詞カードも、読みやすいように、括

大コピーを使って作り、始めに歌詞をゆっくり読みあげ、それから歌います。

私一人の力ではとても無理で、音文3期Aさん、同4期Bさん、同6期Cさんと一緒にやっています。「昔の歌はええなあ」「また来てや。待ってるからな」とも言ってもらえます。

私は自分の弾きやすいように伴奏譜を作り、今までに百十数曲を歌ってきました。苦労も多いが、デイケアに来ている人達の優しさに支えられて、体力の続く限り、このボランティアを続けたいと思っています。

グループ紹介②

折り染めグループ

伊藤 公子



小さく三角に折った和紙の隅々に、好みの色の染料を含ませるだけで、万華鏡のような美しい模様になります。その紙を色々な手工芸に使います。幼児から高齢者の方まで楽しんで頂けますので、今まで参加したイベントではいつも好評を得ています。

せつかくの折り染めグループも後継者がいないので、この度新しくボランティア仲間を募集します。講習会を下記要領で実施しますので、ご希望の方は振るって参加してください。

日時 平成17年11月11日(金) 10時~12時

場所 神戸市シルバーカレッジ 美術室

講習料 無料(エプロン、手拭をご持参下さい)

希望者はグループわの事務所(電話743-8101番)までお電話ください。

注目を浴びる手話コーラス

副理事長 井上 堅

9月21日(水)高齢者学習センター文化発表会がコミスタこうべ体育館で行われた。神戸老体大学同窓会・老眼学会とグループからは手話コーラス同好12名、銭太鼓楽遊クラブ銀雅15名が出演した。

銭太鼓・手話コーラスとも今回の発表会で重複しない出し物であったので、会場の注目をあびていた。

手話コーラスの

熱演に、観衆の中には舞台と一緒に手を動かし歌っている姿を多く見かけた。出演者からも「観客と一緒に手話をしてくれたことがとても嬉しかった」と演じる喜びが語られた。

銭太鼓楽遊クラブ銀雅も笑顔でリズムを取り、大きな拍手をあびていた。◆



人気を集めた手話コーラス

夏休み宿題のお手伝い 2話

自分で工夫して遊び道具を作ろう

生3-環 中島 洋吉

こうべ環境未来館環境学習講座『第4回 自分で工夫して遊び道具を作ってみよう～工夫次第では不要になったものが生き返るよ!』の催しが、8月20日(土)に開かれました。

『自分の身の回りには、工夫して少し手を加えればまだ使えるものがたくさんあります。これらの使わなければごみになる材料を使って、簡単な遊び道具づくりに挑戦して、体験的にごみの減量化について学ぶと同時に、ものづくりの面白さや遊ぶ楽しさを味わってみませんか』の呼びかけに、65名(子ども32名大人33名)参加がありました。

神戸市のごみの現状について話を聞いたり、持参してもらった各家庭で不要になった物を利用して作った製品をお互いに紹介した後、いろんな廃材を使っての遊び道具づくりに挑戦しました。

参加者はこうべ環境未来館コーディネーターやグループわ木工倶楽部の皆さんが、事前に準備してくれた材料を使い、丁寧な指導を受けながら、牛乳パックを利用して紙トンボ、紙写真機づくり、ペットボトルを利用して風車・水車づくり、トイレットペーパーの芯やフィルムケースを利用しての笛づくり、古布を使

ったのお手玉・雑巾づくり、木材・竹材の廃材を使っての工作(水鉄砲・紙とんぼ)づくりなどに時間の経過も忘れるほど大人も子どもも熱中し、世界に一つしかない自分だけの手づくり遊具を完成させました。参加者からは「おもちゃを作っている時も、遊んでいる時と同じ様に楽しい」と、ものづくりの楽しさを満喫していただいたと思います。以下参加された方々の感想を紹介します。

【子ども】

・使い終わった物でも、こんなに楽しいものになるとは思いませんでした。その中でも私は笛が好きで、笛でいろんな曲が吹けたことが楽しかった。(10才女児)

・何時も捨てしまう物も、いろんな工夫をすれば又もう一度使うことが出来るのがわかってよかったです。(11才女児)

・いらなくなった物でたくさんのおもちゃを作ることが勉強になりました。水車や紙トンボづくりが楽しかった。(12才男児)

・いらぬごみでもリサイクルすると、カメラや紙とんぼ、笛が出来るのがわかりました。そのうちカメラを作ったのが楽しかった。(8才女児)

・家庭で出た不要な物で、貯金箱や登り人形といろいろ



廃品で作った紙とんぼを飛ばす子どもたち

ろ作れて楽しかったです。皆さんありがとうございます。(9才女児)

・神戸のごみが多いことが分かりました。パタパタ作りが楽しかった。(7才男児)

【大人】

・ペットボトルで服が出来るのが新しい発見です。一人当たりのごみの量は神戸市が一番多いことを知りました。(34才男性)

・不用品を利用して、これだけの遊ぶ物が作れ、子どもも鋸を使ったり、釘を打ったりとても良い経験ができました。子どもたちは教えてもらいながら楽しんで作品が出来、大満足しています。(34才女性)

・不要になった物やごみを捨てる前に、新しいおもちゃに作り直せることが分かり勉強になりました。孫達と糸鋸などを使って、物を作る事ができ楽しかったです。(76才女性)

・ペットボトルや廃材でいろんな楽しいおもちゃが出来上がったのには驚きです。ごみをうまく使えば資源になるし、もう一度新しい物に作り

直せる再利用法があることを改めて感じ、貴重な体験ができました。家では経験させてやれない、道具を使って親子で木工作业が出来て楽しかったです。(43才女性)

・木工の材料が選挙の済んだ後の看板と聞いてびっくり、きれいなのに捨てられてしまう物が多いことを知った。子どもが初めて鋸、針を使って物を作りました。道具が良かったのか(?)割と簡単に使いこなして、家でも親が危ないと思ひ込んでしまわず、何でもやらせてみようと思った。(42才女性)

・初めて子どもに針を持たせました。想像以上に楽しそうにしていました。また家でも面倒くさがらず使わせようと思います。牛乳パックとストローだけで、竹とんぼが出来たのは驚きでした。(女性)

・作る時間を忘れるほどの楽しさと、出来たときの子どもの嬉しい顔が大発見です。不器用で折り方一つ手惑いましたが、子どもと楽しめました。(36才女性)

等などたくさん感想が寄せられました。◆

昆虫を捕らえて標本つくったよ!

理事 大西 隆史
生7一環 松本 恒司

8月21日(日)しあわせの村内の「あおぞら」を会場に”親子であつまれ自然あそび塾～昆虫をさがして標本をつくろう～”を開催した。

イベントは(財)長寿社会開発センターの助成を得て、県立人と自然の博物館との協賛事業として行った。

夏休みが終わりに近づ

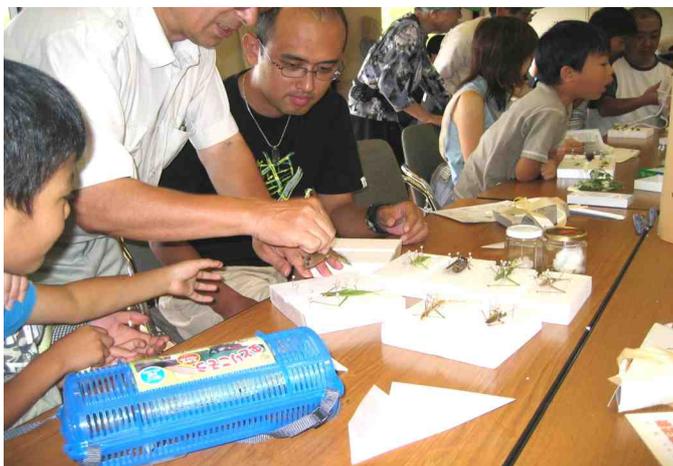
くグループが刈り取った草を積み上げて作った堆肥塚(通称、落ちバンク)を掘り起こしたが、なかなかお目当てのカブトムシは見つからない。やっと立派なカブトムシの成虫が見つかって、子どもたちも歓声を上げて取り出していた。

昼食のあと、昆虫標本作りのスライドを使って

昆虫がいること、捕まえることができ楽しかった」、「昆虫には血管がないことを初めて知った」、「楽しかった。また来たい」(こども)、「昆虫の標本作りを正式に習って有意義であった」、「昆虫採集・標本作りをこどもと一緒にして絆が強まった」(大人)など楽しかった、また来たいといったものが多く、なかなかの好評であった。

このイベントには「グループわ」から環境部会「ビオトープグループ」、「里山グループ」と本部あわせて28人が企画立案から当日の進行までに参加したが、大勢

の親子の笑顔に準備の疲れも癒された一日だった。今後は標本を作るだけでなく、昆虫が食べる植物との関係、食べたり、食べられたりする昆虫と昆虫の関係、昆虫と人間との関係などを考える催しを考えたい。例えば、アゲハチョウが生きてゆくには柑橘類の植物が必要だとか、クワガタがいる森には、必ずカミキリムシがいる。アシナガバチの子育てにはイモムシや毛虫が必要といったことなど、子どもたちに昆虫採取に際しての基礎知識を学んでもらえるようにしたいと、ビオトープクラブでは計画している。◆



昆虫の標本作りの指導を受ける子どもたち

いた時期ともかさなって36家族98人(大人44人、こども54人)を数え、ミーティングルームが溢れんばかりの盛況であった。

午前と同博物館の大谷剛先生の昆虫採集についてのお話のあと「あおぞら」周辺での昆虫採集に出かけた。受付開始時の雨も上がった薄曇りの下、それぞれ獲物を求めて元気よく飛び出した。

今年は少雨のせい、トンボや蝶はやや少なかったようである。でも標本作りには十分な昆虫を捕まえることが出来たようで、子どもより親が夢中になっているファミリーもあった。

また、ビオトープグル

大谷先生のお話があり、そのあと先生と博物館の3人のアシスタント嬢の指導で、家族ごとに採集した昆虫の標本作りにとりかかった。

標本作りは親子が協力しながら懸命に取り組む、インストラクターの丁寧な助言や手助けもあって、1時間余りのうちにすべての家族が作品を完成させることができた。中には立派な作品を標本台2、3台も作って持帰りケースに入りきれない家族もみられた。

参加者の感想を要約すると「昆虫の標本を作ることは命を殺すことだから昆虫の命を無駄にしないよう標本を大切にしたい」、「いろいろな

「昔あそび研究会」に お礼状が届きました

* * * * *

聖ミカエル南五葉幼稚園
母の会副会長 的場 美和子

去る8月1日、猛暑の中、私ども聖ミカエル南五葉幼稚園の母子のために「昔あそびの会」をご指導頂きましたこと心より御礼申し上げます。今回の会は参加した親子にとっても好評でした。

正直なところ日頃母子でじっくり工作をする時間はなかなか得られません。また、普段は核家族同士のお付き合い中心の世代にとって、おじいちゃん、おばあちゃんと触れ合うこと、日本の伝統や文化的なものを教わる機会があまり無いのが現状です。

その意味で新鮮な環境の中で、一緒に作った紙(竹)トンボ、ビュンビュン、独楽はとても楽しく、あっという間の2時間でした。オモチャに不自由しない子どもたちにとって、身近な材料で創ること、最初から最後まで自分で創り、遊ぶコトを得るまでじっくりと取り組む”達成感”の重要性を改めて感じました。

幼児期における子どもたちにとって、貴会の存在と活躍はとても意義あることです。今後ますますのご活躍を期待すると共に、再び幼稚園にお越しいただけることを切に望みます。ありがとうございました。

模擬患者グループに感謝状

日本薬学会から「神戸SP研究会」に

国8一福 森田 修司

この度「日本薬学会」より神戸SP研究会の活動に対して感謝状が授与されました。

この研究会は国際8期のグループ学習「神戸で初めてのSPボランティア活動の理論と実践」から始まり、卒業後も発展的に活動しています。

してもらうのがSPの役割なのです。

この『医療面接実習』は、平成13年からの準備期間を経て、平成17年より医師国家試験の一部に取り入れられることになっています。そこでもSPは試験官と協力して重要な役割を果たさなければなりません。

今後は医療界だけではなくSPの活動の場が「弁護士」「サービス業界」にも、必要とされることになると実感しております。

あなたも模擬患者になってみませんか

ここは、ある大学医学部の学習室です。おおぜいの医学生さんの前でSP（模擬患者）と医療者役の学生さんとで医療面接が行われようとしています。

医療面接教育というのは医学生、薬学生、看護学生などが専門職として医学を学ぶだけではなく患者との意志疎通が十分にでき、かつ医療に必要な会話を患者との間でできるように、その能力向上のため行うコミュニケーション教育なのです。

私たちSPが病態を持った患者を想定したシナリオに基づき「模擬診察」を受け、学生さんと「医療



日本薬学会の感謝状

面接」の会話の相手役をするのが模擬患者なのです。現在「神戸SP研究会」は新しい会員4名の参加を得て12名で地元大病院の医学生、薬科大学の薬学生さんと定期的な「医療面接教育」のお手伝いをいたしております。

あなたも、医療の将来を担う学生さん達の学習の手助けをするボランティア活動に参加してみませんか…。

＜会員の入会資格は問いません。入会金1,000円 会費6ヶ月3,000円です＞

問合せは…「神戸SP研究会」代表 森田 修司
電話：078-581-6873
まで。



大病院の医療者と医療面接教育のお手伝いをする神戸SP研究会の会員

私たちがいままで患者として医療を受ける場合、患者側はともすれば受身の立場で「こうして欲しい」などと患者の希望を述べられる機会がなかったのです。そこでSP（模擬患者）として、学生さん（医学生、薬学生、看護学生など）や医療者（医師・薬剤師・看護師・理学療法士など）との医療面接を通じて、医療者の話し方、説明の仕方によって、患者にどのような影響を与えているかを、SPのフィードバックなどを通して気づいてもらい、その後の医療活動の実践に生か

さん。

薬大（薬学部）において平成18年度の入学生から6年制となり、薬学生の医療で果たす役割が大きく変わろうとしています。このため現役で活躍中の薬剤師の再教育と今後の指導者の養成も急務となっております。

それを踏まえて「厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ」が全国的に開催されており、その時に模擬患者として協力したことに対する感謝状をいただきました。



神戸SP研究会のメンバーのみなさん

西区会

盛大に「明石川まつり」

パネル展示や竹細工でグループわをPR

生8-西 三島 隆夫



地域住民が総出でにぎわった明石川まつり

震災10年、西区からの発信事業として第2回明石川まつりが、さる9月3日(土)明石川のほとりにある住吉神社を中心

に盛大に催されました。

主催は押部谷町明石川

愛護協議会で、後援は神戸市西区役所です。グループわに協力依頼があり、こうべ環境未来館の

ビオトープ(未来の泉)の紹介パネルの展示、竹細工の竹とんぼ、竹馬、竹のイカダなどを作って協力しました。

当日は周辺の方々が多人数参加され、住吉神社の本祭りよりも人出が多いとの評判でした。西区には明石川を母流とした伊川、櫛谷川の支流があり、この二つの支流の方が早くから川まつりを開催しており、本流の明石川も追いつけと開催にこぎつけたもので、今後とも続けて行くそうです。

なおグループわの押部谷地区在住の皆さんの音頭とりで、まつり前後の川の清掃作業等に協力されました。

西区民センター前の花の手入れ

現役学生とわの会員が協力

生8-西 三島 隆夫



花の手入れを終わり、現役の皆さんと

去る9月16日(木)に西区玉津町にある西区民センター入り口に設置されているプランター20数個の花の植え替えと移植を、シルバーカレッジの西区交流会(なでしこ5グループ)の皆さん8名の方々と、西区わの会員5名、合計13名で実施しました。

ことの起こりは7月21

日、シルバーカレッジの授業の一環である1~3年生共通の地域交流会からはじまったのです。西区176名の在校生にグループわの説明をした際、当時から予定していた”花のボランティア”の参加を呼びかけたところ、なでしこ5グループの皆さん19名が協力しようと立ち上がってくれ

ました。

代表の岡田さんらと数回の打ち合わせを行い、この日は午前9時から11時頃まで、和気藹々のうちに作業を終わりました。当初は、わの会員だけで行う予定でしたので、作業は午前中、掛かるだろうと予測していました。さすがは現役の皆さんの協力でアツという間に、土の改良、入れ替え、ラベンダーの移植、ゴールドカレスト、なでしこ、アキランサスを植え付

仕上がりの美しさに疲れも忘れ、現役の皆さんとの親睦もはかられ、地域交流会の有意義さが特にクローズアップされました。岡本館長より感謝と労いの言葉を頂きました。西区民センターに行かれることがありましたら、鑑賞してください。現役の皆さんありがとうございました。次回は12月初旬に実施の予定です。

インター6のみなさんから寄付

「インター6」(インターネットクラブに所属していた6期OBのグループ)より、この度グループを解散したので、グループの残金4,580円をグループわに寄付して頂きました。グループわ活動のため、有効に使わせて頂きます。ここに厚く御礼申し上げます。

事務局



花の植え替え作業

長田区会

美味しいパン 販売はじめたよ

食7-長 北田 正文



福祉パンの販売をはじめる

長田地区会は障害者の就労支援の一助として、地域で暮らす障害者の方々が経済的自立と社会参加の実現を目指し、一市民として明るく生き生きと生活を営んでいけることを願い、9月6日(火)からお手伝いをはじめました。

週内、火曜日、金曜日にシルバーカレッジ『ふれあいホール』で、中央むつみ会カフェ&ベーカリー「ふらわあぼえむ」の小さなパン工場で朝早くから焼いたパンの外販のお手伝いです。客呼び込みの掛け声も、ぼえむの販売員に負けないように元気な声を出し頑張っています

廉価で美味しいアンパン、菓子パンなどメニューが多種あって、午前11時半ごろ～13時まで販売をしています。一度お立ち寄りいただいております。一度お立ち寄りいただきお召し上がりください。

わたくしたちは、みなさまと販売を通じて密接な交流を持ち、障害者の方々について理解を深めて頂きながら自立の援護、経済的安定、やり甲斐・意欲の向上につながればと微力ながら応援しています。社会の役割の一端を担うことには誰かのお役になっていることであり生甲斐を感じます。

末長く皆様のご支援をお願い致します。

兵庫区会

共同募金を呼びかけ

生6-環 竹田 昭一

毎年恒例の風物詩になっている共同募金が、今年も10月1日(土)から全国一せいに始まりました。私たちの兵庫地区でも兵庫区役所からの要請で、兵庫パンジーの会から宮城さん(音文3期)ほか会員10名が10月3日(月)の午

後、買い物客や通勤客が行き交うJR兵庫駅南キャンナルタウン広場で、夕方まで募金を呼びかけました。

お陰で小さなお子たちから、お年寄りまで幅広い年代の方々から尊い浄財を募金箱に入れて頂きました。夕刻参加者一同心地よい疲労と、充実感にひたり、一日の活動を終える事が出来ました。

東灘区会

「はがき絵」でカード、年賀状づくり

音5-東 藤井 潤子

一人暮らしのお年寄りに、クリスマスカードや年賀状の「はがき絵」を送って、心の慰めにさせていただこうと、ボランティア活動の一つとしてスタートしました。

講師は皆木喜一さん(美工・9期)。半世紀以上も絵筆を持ったことの無いという仲間9名が集まって月2回のお稽古。お絵かきの基本から筆の持ち方、線や丸の描き方、描く対象物の塗り方を懇切丁寧に教えて頂く。時には線の描き方だけで、2時間近くという厳しい指導もありました。

6回の稽古を終わりましたが、まだ先生のお手本を見て描くだけです。いま年賀状に挑戦していますが、果たして来年のお正月に間に合うのでしょうか?

稽古は毎週第1、4火曜日の午後1時30分から4時まで、魚崎福祉センター2階で開いています。もう少し楽しい仲間がほしいです。



はがき絵教室のみなさん

北区会

グラウンドゴルフ大会

生6-北 津川 静代

10月17日(月)は天候に恵まれ、しあわせの村芝生広場(北)に於いて、グラウンドゴルフ大会を開催いたしました。はじめての試みでしたが参加者43名、初心者が半数近くあり、生涯スポーツ等で活躍されている方をリーダーに、教えを

受けながらのプレー。ホールインワンもあれば数打もあり、その都度各チームより大歓声が上がり楽しくプレーをしました。

優勝は37、BBは62。終了後、レストランミーゴで昼食を取り、成績発表をして和気あいあいの内に解散いたしました。この度の親睦会で北区会員の絆がより深まりました。次の機会を楽しみに!



グラウンドゴルフを前に準備体操

JAL 日本航空で行く

バンコクと 世界遺産アユタヤ遺跡 5日間の旅

出発日：平成17年12月6日（火）

旅行代金：59,800円（大人ひとり様/2名様1室利用）（全行程観光・食事つき）

申込締切：出発日の30日前（11月6日）

最少催行人員：10名

利用航空会社：日本航空（JAL）（往復直行便）

出発地より添乗員同行します

利用予定ホテル：モンティエン・リバーサイドホテル・レンブラント・サイアムシティ・
ラディソンプラザ・グランドホテル・ホリディインシーロム又は同等クラス

上記料金には関西空港使用料；2,650円、燃油サーチャージ：7,200円（計9,850円）は含まれていません。旅行代金とあわせてお支払いください。またタイ空港税500パーツ（1,550円）は現地にてお支払いください。

日	スケジュール （◎下車●観光）	食 事
1	日本航空 727 便にて、関西空港（18：45 発予定）よりバンコク（22：55 着予定）へ（※時差は2時間）到着後ホテルへご案内します。 【バンコク泊】	機 内
2	ホテルにて朝食後、終日 バンコク市内観光 （三島由紀夫の小説のモチーフにもなった◎ 暁の寺院 、白壁に囲まれた20万㎡の敷地を持つ◎ 王宮 、タイ最高の地位と格式を誇る● エメラルド寺院 ・リクライニング・ブッダがたおやかな姿で横たわる◎ 涅槃寺 ）とショッピング（免税店）にご案内します。 昼食は飲茶をどうぞ 夕食は中華海鮮をどうぞ。 【バンコク泊】	ホ テ ル 飲 茶 中華料理
3	ホテルにて朝食。 終日 世界遺産アユタヤとバンバイン観光 （国王の夏の離宮であった● バンバイン宮殿 、アユタヤを代表する遺跡● ワットプラシーサンペット 、寝釈迦のある● ワットロカヤスタ ） 昼食は郷土料理、夕食はタイ古典舞踊を鑑賞しながらタイ料理 【バンコク泊】	ホ テ ル 郷土料理 タイ料理
4	ホテルにて朝食。 午前：“東洋のベニス”と呼ばれる ダムナンサドゥアク水上マーケット観光 昼食はレストランにてバイキング 午後タイの伝統文化を伝えるアミューズメントパーク ローズガーデン観光 夕食はタイスキ（タイ風しゃぶしゃぶ）をどうぞ 【バンコク泊】	ホ テ ル バイキング タイスキ
5	ホテルより朝食後空港へ。 日本航空 728 便にて、バンコク（9：10 発予定）より一路帰国の途へ。 関 西空港（16：15 着予定）到着後解散	ホ テ ル 又は弁当 機 内

上記日程にてご案内申し上げます。参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

グループ わ TEL 743-8101

大坪英二 TEL&FAX 709-2484

平成17年度生活力アップセミナー

男のための食育講座



神戸市保健福祉部は、白井操クッキングスタジオ、コープこうべ、兵庫県予防医学協会、グループわとの協働で、下記の日程で「男のための食育講座」を開催します。①男性高齢者等の食の自立 ②元気高齢者の生きがい対策 ③高齢者の閉じこもり防止 ④「食」を通じた地域での交流拡大をねらって、栄養改善事業のモデル事業として開催するものです。

対象者 市内在住の料理未経験の高齢者（概ね60歳以上の男性）とします。
申込み TELで下記まで。（11月7日（月）より先着順に受付）
講師 グループわ 食文化コース卒業生のみなさん
参加費用 3,000円（4回分、税込み）を1日目に集めます。欠席した場合、返金はしません。

開催場所と日程等（時間は各回10:00～13:00）

場 所	六甲道勤労市民センター （4階料理教室）	健康ライフプラザ （4階「ライフキッチン」）	垂水勤労市民センター （3階料理教室）
第1回	11月30日（水）	12月7日（水）	12月12日（月）
第2回	12月19日（月）	1月11日（水）	1月23日（月）
第3回	1月25日（水）	2月7日（火）	2月20日（月）
第4回	2月22日（水）	3月3日（金）	3月6日（月）
お問い合わせ・お申し込み先	灘区保健福祉部健康福祉課 843-7001（代）	兵庫区保健福祉部健康福祉課 511-2111（代）	垂水区保健福祉部健康福祉課 708-5151（代）

各回のテーマと献立

- （第1回）これさえ出来ればなんとかなる基本4品（牛しゃぶ、キムチ、ブロッコリーの胡麻和え、味噌汁、ご飯）
 （第2回）いつもおかずのバランスに注目（焼き魚、青菜と油揚げの煮物、めかぶとささ身の酢の物、かきたま汁、ご飯）
 （第3回）体調の悪いときに（おかゆ、電子レンジで作る簡単一人鍋、カレーの煮付け）
 （第4回）これが私の18番～得意の一品を作ろう～（うなぎの中華風ピカタ、オープンオムレツ）

村祭りバザーの報告

恒例のしあわせ村の村まつりが7月30日、にぎやかに行われました。今年は模擬店にグループわとして「バザーの店」を出店しましたところ、天候にも恵まれ多くの人々が訪れ、売り上げは48,055円となりました。グループわの活動資金の一部として役立たせていただきます。

出店に備えて会員の皆さんに不用品をご寄付いただきましたこと深く感謝申し上げます。

事務局

シンガポール Compassvale Secondary School ブラスバンド演奏会

日時 11月25日（金）
12時～13時

場所 カレッジホール
シンガポールのコンパスベイル校は、これまでに数回シルバーカレッジを訪問し、演奏会や、学生と交流をしてきました。久しぶりに演奏を聴いてみたい・・・と思われる方、はじめて聴いてみようと思われる方、**沢山の方のお越しをお待ちしています。**

編集後記

トップ紙面には会員どうしで助け合う相互扶助事業を取り上げました。なにか堅苦しい話のように聞こえますが、困っている会員とその家族をみんなで助け合おうということです。この話は赤司・前理事長の提案で計画されたものです。

すでに「相互扶助事業実施要綱」なるものが出来上がっていますが、支援する人、受ける人が近くの会員でなければという制約もあって、全市一斉という訳には行きません。

そこで各区単位で始め

ようと西、兵庫区会で検討されていますが、それぞれ事情があって即実施とは行かないようです。

先日、三木市にある県広域防災センターで、防災教育専門員の講義で知ったのですが、阪神大震災の時、神戸市内で61件の火災が発生したが、そのうち近所の人たちのバケツリレーで12件が消し止められたという。

公共機関に頼らず、隣近所の助け合いがいかに大切かを教えられました。お互い無理のない範囲で、出来ることから始めようではありませんか。（J・N）